

新市立病院整備市長タウンミーティングにおける意見概要

会場：箕面文化・交流センター 8階 大会議室

令和4年12月19日 午後7時開催

No.	ご意見・質問内容	回答内容
1	病院の再編統合をなぜ国が推し進めているのか、目的・理由が知りたい。	医師の働き方改革への対応や医療資源の最適配置のため、病院数の集約と病院間の役割分担を進めることで持続可能な医療提供体制を構築することが国の主な目的です。箕面市立病院の場合、単独の整備では病床数を増やすことができませんが、他の病院との再編統合ができれば増床が可能で、ひとつの大きな病院にすることができます。
2	新型コロナウイルスの感染拡大により、以前救急車の中で3時間以上待たされたことがある。過去には箕面市立病院に結核病棟もあったので、その頃と同じ対応を取れるように新病院整備に伴い感染症内科の充実を検討して欲しい。	新病院の診療科については、現市立病院の診療科に加え、感染症対応も見据えて呼吸器内科を新設する予定です。感染症に対しても十分対応できるように整備を行います。
3	箕面市は人口が増加しているが、過去にはあった保健所が現在はないため医療逼迫への対応は弱いと思われる。池田市よりも箕面市のほうが人口が多いのに保健所がないことに疑問を持つ人は多いと思われる。市立病院の整備とともに保健所の設置等も検討して欲しい。近隣市から取り残されている感じがする。	保健所の設置は、大阪府の管轄です。過去には箕面市内にもありましたが、大阪府の組織改編により現在は箕面市、池田市、豊能町、能勢町をひとつの圏域として池田保健所に機能が統合集約されています。保健所機能の充実強化については、ソフト面も含めて随時保健所とやり取りを行っています。設置場所が池田市であっても、箕面市がないがしろにされている訳ではなく、等しく対応がなされています。
4	現市立病院で導入されている医療機器や設備は効果を発揮できているので、今後も感染症へ対応できる組織づくりや、病床の増設等改善を行って欲しい。	新病院では病床数の拡大に伴い、診療科の新設も行う予定であるほか、医療機器や設備を充実するよう計画していきます。内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」も更新し、大阪大学医学部からも多くの優秀な医師を派遣していただけるようにすることで、質の高い医療の提供を目指します。
5	用地取得費について、9億円という記載があるが安価過ぎないか。どのくらいの面積なのか。	新市立病院用地のうち半分以上は船場繊維卸商団地協同組合からの寄附をいただいたため、購入費としては少なくなります。敷地面積は、約14,000㎡です。現市立病院の敷地が約30,000㎡なので、面積としては小さくなりますが、その分建物の高さを高くすることが考えられます。
6	駐車場は何台分整備する予定か。	自走式の立体駐車場を整備する予定で、駐車台数は市の条例に基づいて確保します。
7	断らない救急に関して、箕面市内には外国人の市民も増加しており、納税し、健康保険にも加入している。過去に、外国人であるため病院受入れが不可能だった事例や、命を落としてしまった事例もある。現在の市立病院には通訳者がいるが、新型コロナウイルスの感染拡大以降は常駐していない。今後も対面での対応をお願いしたいが、新病院の整備では多言語対応、外国人対応についてはどういう予定か。	箕面市内には87カ国、約2,950名の外国人が居住しています。現在、市立病院では多言語に対応できるボランティアのかたに協力いただいています。また、大阪府が提供する電話通訳サービスや翻訳機「ポケット」による翻訳機能も採用しており、新市立病院についても継続して多言語に丁寧に対応できるようにしていく予定です。
8	平成29年の市議会で新病院の建替えが議決された当時、何床の病院で整備する計画だったのか。現状の市立病院の病床数を確保できることを念頭に置いて議決されたのか。後に開催された箕面市新市立病院整備審議会にて直営の場合は急性期267床しか整備できない、回復期50床の移転が難しいということを知ったが、平成29年の議決時には回復期50床は確保できるということで議決されたものではないのか。平成29年の時点で国から病院再編統合の制度について打ち出されていたが、再編統合について議論されているのが昨年の審議会であるのは、それまで病床数について検討されず、回復期50床の移転が困難なことを認識していなかったからではないか。	平成29年12月の市議会では、老朽化への対応が喫緊の課題であるとして議論が進められました。大規模改修による長寿命化か、現地もしくは移転での建替えかを検討した「箕面市立病院リニューアル調査検討報告書」において、現地建替えと移転建替えが両論併記となったことから、市議会で検討をいただいた結果、移転建替えすることが議決されました。病院の規模・機能、あるべき姿はその後検討することになっており、回復期50床の取扱いについて細かく調査、検討していく段階で大阪府と協議したところ、制度上移行できないことがわかりました。
9	老朽化については理解できるが、北大阪急行線の延伸による阪大の移転に付随して「土地が余っているから新病院建設」という安易な発想があったのではないかと。本当に箕面市の医療ニーズに応えるための建替え計画ではないように思える。近隣市の川西市や吹田市でも新病院が整備され、各地にも視察に行ったとすることで新しい病院は良いように見えると思うが、もう少ししっかりと検討する必要があるのではないかと。	移転建替えが決定した経緯は項番8のとおりであり、決して土地が余っているからという理由ではありません。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
10	北摂地域には病床数が多いという話は以前からあったが、箕面市立病院としての最善の病床数はいくらなのか。採算性も考慮した病床数が良いのか、余裕をもった病床数で大阪大学の医師のスキルを上げるのが良いのか、資料にある350床が最適という根拠がわからない。指定管理という言葉もここで初めて聞いたが、資料の図にある急性期80床、回復期50床のA病院は単なる参考なのか指定管理先の暗示なのか。実質的にどうすべきかという検討の経過が分からない。つじつま合わせのような提案はして欲しくない。	350床という病床数については、入院患者数が最大になると推計される2055年の医療需要に応えるために必要な病床数です。病床を90%稼働で運営した場合、最低でも300床、最大で350床は必要になるという判断です。 再編統合に伴う指定管理者制度の導入については、豊能医療圏内の複数法人より前向きなご意見をいただいておりますが、現時点で指定管理者が決まっているということはありません。資料に記載のある再編統合相手の病床数についてはあくまでもイメージであり、例として記載したものです。
11	少子化が進み分娩が年間80件に減少しているため産科を見直すとのことだが、出産の際に、民間病院か、所得が少なくても安心して出産できる公立病院かを選択できることが大切ではないか。採算が合わない診療は扱わない、なくしていくというふうに思えてしまう。箕面市は「子育てのしやすさ」を掲げているので是非分娩についても充実させて欲しい。	市立病院の分娩件数は過去多いときで年間約1,200件ありましたが、令和3年度には年間約80件まで減少しています。市立病院の減少分は市内や近隣の民間病院が担っているのが現状です。箕面市立病院の場合、大阪大学医学部から医師の派遣を受けていますが、大阪大学医学部としては、今後拠点を絞って派遣先を集約していく方針と聞いています。そのような状況で、市として分娩の取扱いを必須とはできないと考えていますが、指定管理者から医師を確保できるという前提で分娩を継続する提案があれば実施していきます。
12	平成20年度までは年間8～9億円が市から繰入れされていたが、その後、平成27年度には独立採算に転換され、以降繰入れされていない。福祉は公的な支援が必要であり、他の自治体では公立病院に繰入れされている。箕面市立病院では赤字経営が続いているにも関わらず繰入れなしの独立採算になっているのはなぜか。	平成25年度には単年度黒字を達成しましたが、その後赤字がかさみ令和元年度には120億円の累積赤字となりました。また、競艇事業会計から13億円の長期借入もしています。一般会計からの繰出しについては、平成21年度以降、一般会計負担をゼロにするという計画のもと、段階的に繰入れを減少させてきた経過がありますが、救急、小児医療といった政策的医療に対して一般会計からの繰出しを行うよう、市として方針決定したため、今年度は約3億3千万円を繰出しています。
13	一般の住宅では通常、都度修理しながら維持していくが、市立病院では老朽化に対する修理、修繕はどうしていたのか。今まで毎年予算の中で修理してきたのか。今後も老朽化している部分は修理して維持するのか。	施設の老朽化については、これまでも修繕が必要な箇所については、その都度修繕を行って維持管理に努めており、今後もその予定です。
14	現地建替えもできたのではないか。	平成29年の市議会において、現地建替えか移転建替えか議論がされた結果、新病院の利便性等を考慮して、船場への移転建替えが決定されました。北大阪急行線の延伸により、新駅から約300mという近距離かつ雨に濡れずに来院できるというメリットがあります。病院関係者にとっても患者にとっても利便性に優れ、市民のために最適な場所で整備できます。また、これまで繊維産業を担うまちだった船場東地区は、今後箕面市、大阪大学、大阪船場繊維卸商団地協同組合と連携のうえ健康寿命ヘルスケアの拠点として好立地のポテンシャルを活かし、整備を進めます。
15	再編統合された場合、統合された病院はどうなるのか。統合された病院にかかっていた患者やその地域の市民はどうなるのか。市立病院の病床数は増えるが医療圏内の病床数は減る。そういった国の方針に対して、なぜ箕面市から国へ意見を言わないのか。	直営により新病院を整備した場合、267床しか確保できないため先細りとなり、将来の医療ニーズに対応できません。国が推し進める再編統合であれば、病床数、診療科を増やし、救急医療にも今以上に対応できるようになります。豊能二次医療圏内において持続可能で質の高い医療を提供するための再編統合だにご理解いただければと思います。
16	近隣の市立豊中病院や市立池田病院は一般会計から繰入れされているのに箕面市ではこれまでなぜされなかったのか。	一般会計からの繰出しについては、平成21年度以降、一般会計負担をゼロにするという計画のもと、段階的に繰入れを減少させてきた経過がありますが、救急、小児医療といった政策的医療に対して一般会計からの繰出しを行うよう、市として方針決定したため、今年度は約3億3千万円を繰出しています。
17	指定管理者制度について、どのように検討を進めているか、また現在指定管理者制度を採用している公立病院はどのように運営されているか聞かせて欲しい。	病院建物は箕面市が建て、運営は民間病院等が行ういわゆる公設民営となります。全国には指定管理により運営されている公立病院が約80あり、大阪府内では和泉市や阪南市が採用しています。いずれも持続可能で質の高い医療を提供することが目的で、問題なく運営されています。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
18	指定管理者により運営される場合でも新病院の名称は「箕面市立病院」か。	新病院の名称は、現時点では未定です。指定管理者制度を取り入れている川西市では「川西市立総合医療センター」、和泉市でも「和泉市立総合医療センター」となっており、箕面市でも今後の検討にはなりますが、少なくとも民間病院の名称になることはありません。